4－8)。

従って，今後は，公立高等学校への志望志向の強まる傾向及び私立高等学校の高等学校教育に果す役割を考え，高等学校の公・私立間の調和ある配置について配慮する必要があろう。

特に，通信制高等学校については，その定着の現状を踏まえ，生徒数の現状維持を図り，設置目的の十分な達成に努める必要があろう。

(6) 学　校　配　置

学校の配置状況を昭和41年度から昭和51年度までの学校数推移からみると，全日制課程においては，県立高等学校の本校が昭和41年度以降77校で増減なしとなっている。

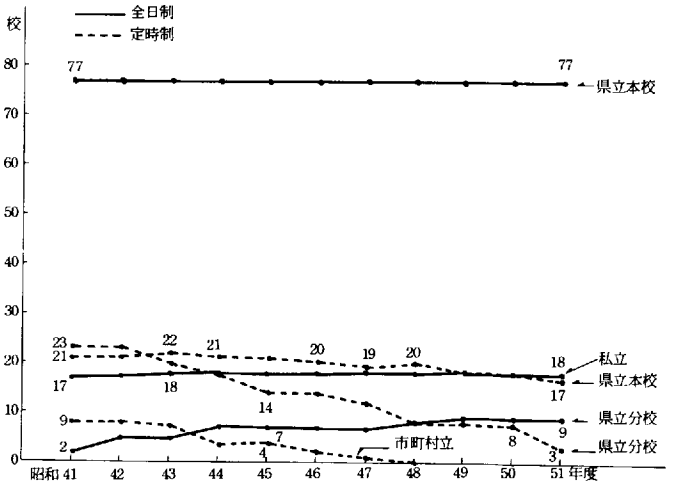
しかし，県立の分校は，昭和41年度において2校であったものが，その後，徐々に増加し，昭和51年度には9校となっている。

一方，私立高等学校は，昭和41年度に17校であったが，昭和43年度に1校増設され18校となって今日に至っている。

定時制課程においては，県立高等学校の本校が昭和41年度21校，昭和46年度20校，昭和51年度17校と緩慢な減少を示し，分校は昭和41年度23校，昭和46年度14校，昭和51年度3校と大幅に減少している。

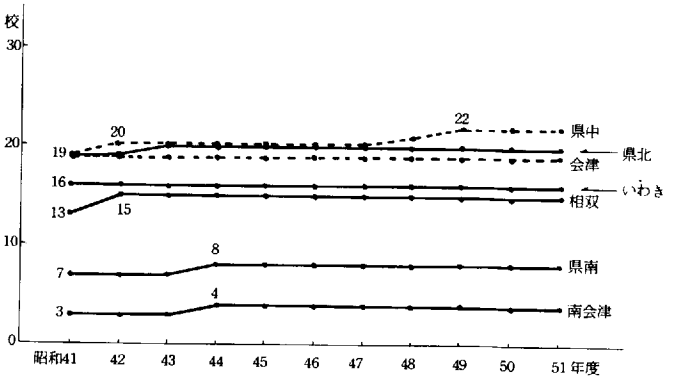
また，市町村立高等学校は昭和48年度に全廃され，私立高等学校も1校あったが昭和51年度に廃止されている。通信制課程においては，県立が昭和41年度以降2校で

図2－4－9　設置者別課程別学校数の推移



注：1．「学校統計要覧」(昭41～昭51) による。
2．私立の定時制高等学校は，昭和41年度から昭和50年度まで1校となっている。
3．通信制の高等学校は，県立が昭和41年度以降2校で，私立が昭和46年度から昭和50年度まで1校となっている。

図2－4－10　地域別全日制高等学校数推移



注：1．「学校統計要覧」(昭41～昭51) による。
2．学校数は，公立，私立の合計である。
3．分校は，1校として取り扱う。